



月刊 **みんぱく** 11月号

2025

特集
星を見あげる

巻頭エッセイ 鏡 リュウジ

惑う星か、遊ぶ星か、それが問題だ？

かがみ
鏡 リュウジ

占星術研究家・翻訳家

プロフィール

1968年京都府生まれ。国際基督教大学大学院修士課程修了。京都文教大学客員教授、日本トランスパーソナル学会理事、NPO法人東京自由大学顧問、東京アストロロジー・スクール代表講師。10代の頃からさまざまなメディアで「占い」をテーマに執筆、幅広い層から支持を受け、従来の占いのイメージを一新。主な著書に『タロットの秘密』（講談社現代新書）、訳書にジェイムズ・ヒルマン『魂のコード』（河出書房新社）、マギー・ハイド『ユングと占星術』（青土社）、ニコラス・キャンピオン『世界史と西洋占星術』（柏書房）ほか多数。

占

星術、星占いという今では「星座占い」だと思われるかもしれないが、これはちよつと違う。正確には占星術の主役は星座ではなく、惑星なのである。

望遠鏡が発明されるはるか以前から、天の星には二種類あることが知られていた。一つは星座をなす「恒星」。かつては地球を取り囲む丸天井のような天球に恒星は張り付いていて、それが一日でほぼ一回転するとイメージされていた。さそり座のS字や北斗七星のひしゃく型の星の並びは変わらないまま、北極星を中心に恒常的に回転し続ける。

それについて「惑星」の動きは複雑だ。金星や火星、木星など惑星は恒星が作る星座の間をぬってそれぞれの速度で動くのだが、折々で速度を変え、動きを止めたかと思えばバックしはじめたり、ループを描く。古代バビロニアで惑星が生きている神々だと考えられたのも無理はない。金星をヴェーナス、火星をマーズなどと神話の名前で今なお呼ぶのはそのなごりだ。古代の人々が行きつ戻りつする惑星たちと地上の人間の複雑で予測困難な営みを重ね合わせ、占星術を構想したのである。星座の動きはあまりに規則的に過ぎて人生からは遠い。一見気まぐれな動きをするように見える惑星にこそ、神々の意

志を見たのだろう。

「惑星」プラネットという言葉の原義はギリシヤ語で「さまようもの」だとさく。同じ語源を有する言葉に「プラントーン」もある。天を放浪するのが惑星であり、水中を漂うのがプラントーンなのだから面白い。

ところで、プラネットという言葉は日本語訳する過程で「惑星」と別に「遊星」も候補に挙がっていた。行きつ戻りつする存在を「惑っている」と見るか、あるいは「遊んでいる」と見るか。そこには人生観の違いが表れているように僕には感じられる。

人生、まっすぐ目的地に「順行」するばかりではなく、ときには寄り道したり「逆行」することもあるだろう。人はそんなとき「惑う」し、星占いに頼りたくもなる。でも僕は思うのだ。そんなときこそ星占いという「遊び」におつきあいいただいてもいいのではないか。そして、星と一緒に遊ぶ心の余裕を持てれば、見えている景色もちよつと変わって見えるのではないか。

行きつ戻りつする僕たち人間はきつと、地上の「惑星」であるとともに「遊星」でもあるのだと僕は思うのである。

月刊 みんぱく

2025年 11月号

表紙

現代の魔女術における8祝祭をあらわす「季節の輪」と、神聖幾何学に着想に得た曼荼羅が織りなす星空。ひらいてはすばみ、ひろがってはつながりゆく「星」たちの姿にあなたは何を思うだろうか。

*本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

- 1 巻頭エッセイ
惑う星か、遊ぶ星か、それが問題だ？
鏡 リュウジ
- 特集 星を見あげる
- 2 星空に人びとは何を見てきたか
渡部 潤一
- 3 江戸時代の星座
嘉数 次人
- 5 星を読み、星に祈る
小川 絵美子
- 7 ママワの記憶、海の技法
中野 真備
- 8 美しい星空の活かし方
卯田 卓矢
- 10 空の星はどんな形？ あの星形は空の星？
- 12 みんなく回覧板

- 14 推しコレ図鑑
アフリカなのにアメリカ？
島村 一平
- 16 ふらりミュージアム
ハラバ人類学博物館
市川 彰
- 17 世界の「乗っちゃえ！」
「霧の街」への道と旧日本軍
久保 忠行
- 18 だって調査だもの
つながりを呼び寄せる「記録」
高科 真紀
- 20 ばくっ！とフィルめし
2つあったオーツケーク
河西 瑛里子
- 21 今月号の地図・編集後記

特集 星を見あげる

空に瞬く星たちは、太古のむかしからこの地球とわたしたちの暮らしを照らし続けてきた。ときにはその星に導かれ、遠くの島へ。ときには運命を知るための道具として。そして、新しいアイデアを生み出すインスピレーションでもあり続けている。遙か彼方から届く星たちの不思議を、人間はいつの時代も探究し、自由に解釈してきた。本特集では、そんな輝く姿を「見あげて」みたい。

星空に人びとは何を見てきたか

生きるための天文学

天文学は人類最古の学問ともいわれる。その始まりは、現在のような純粋な知的好奇心に基づく学問とは異なり、いわゆる実学だった。生きていくための知恵を星空から授かっていたといっても過言ではない。それらは、やがてそれぞれの地域で独特の文化をもたらししていく。

初期の天文学の結晶が暦だ。満ち欠けしながら循環する月は良い指標となった（太陰暦）。カレンダーなどを皆が持たない時代、月の形は日付の目安となり、物々交換や市を立てる日が月の形で決められた。日本でも十日市とか八日市とかという地名に残されている。しかし、月の循環は季節と無関係であり、農業国では星（太陽）を使った暦（太陽暦）ができていく。

その起源は古代エジプトだ。ナイル川の氾濫の時期を見極めるために星の観察をおこなっていた。その後の西洋星座の原型となり、現在使われている星座へとつながっている。

ちなみに日本では生死をかけて星を眺める必要性に欠けていた。起伏に富む地形を覚えさえすれば方角はわかるし、四季も明瞭なので星を眺めて季節を知る必要も無かった。逆に、月を愛でる文化が発達し、月齢ごとに異なる豊富な名前を持つほどとなった。その意味で、日本はいわば「月の文化」に属し、「星の文化」とはかなり異質である。人類初の宇宙空想小説ともいえる「竹取物語」は、その集大成だろう。

緯度による違いを除けば星空はどこから見ても同じである。しかし、古の人びとが、その星空や月を見て、何を思い、初期の天文学として、どのように追求してきたかは、それぞれの地域性を反映しつつ、独特の文化へとつながっていったのである。



満月の拡大写真。肉眼でも見える黒い領域は玄武岩でできていて、月の「海」とよばれる。日本では餅をつくウサギに見立てられるが、文化によって何に見えるかはまったく違っている（国立天文台提供）

イル川の氾濫（上流域が雨期になるころ）を見誤れば、灌漑農業による麦の生産に影響する。いわば国家の存亡がかかっていた。それゆえ実学としての天文学が発達したわけである。

星の文化、月の文化

星座の成立も同様だ。古代中東地域では地上に目立った地形がない砂漠が多い。オアシスからオアシスへの移動のため、方角を正確に知る必要性から星座が作られ、活用された。方角を間違えれば死が待っているわけ、星空に描かれた星座こそ、生き残るための知識と道具であった。それらは



下部の2つの球は、地球を中心として星座や赤道、黄道を球面上にあらわした天球儀。宇宙の動きを示す。上部の円盤は占星術のホロスコープを描くための道具（H0198574、インド）

江戸時代の星座

嘉数次人 大阪市立科学館主任学芸員

天上に広がる古代中国社会

晴れた夜、星空を見あげて星座を探すのは楽しい。星と星を線で結び、狩人オリオンや天翔るペガサスなどの姿を想像するとあつというまに時が過ぎる。

わたしたちが日ごろ親しんでいる星座の数は八八。古代メソポタミアで原型が作られ、ギリシアを経てヨーロッパで発展したもので、一九二八年には国際的に定義もされた。しかし、これらの星座が当初から世界中で使われていたわけではない。特に日本を含めた東アジアでは、中国で作られた独自の星座体系（以下、中国星座）が使われていた。

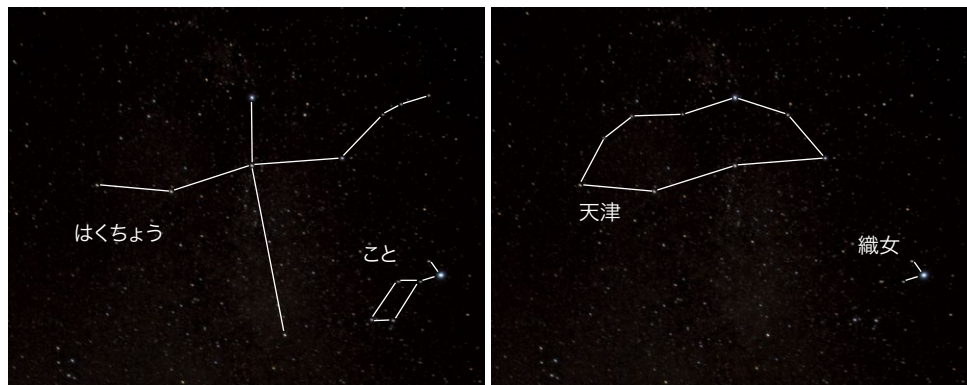
中国星座は二五〇〇年以上前に形成され、三世紀に二八三の星座が整備され完成した。この世を支配するのは天であるという考えに基づき、天上に天帝を中心とした世界を展開しており、天の北極に帝の星が置かれ、

こない、全天でもっとも明るい恒星である、おおいて座の一等星シリウスが夜明け前の東の低空に見える始める日を年初とし、長年の観察から一年が三六五日よりも〇・二五日分ほど長いことさえ突き止めていた。ナ

渡部潤一 国立天文台 上席教授

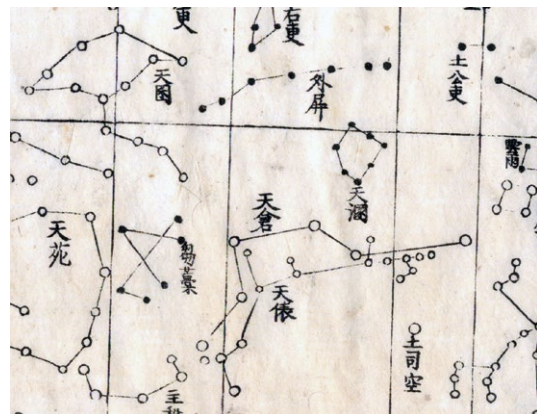


エジプトのピラミッドと皆既日食の様子（合成）（どちらも2001年、渡辺和郎氏撮影・提供）



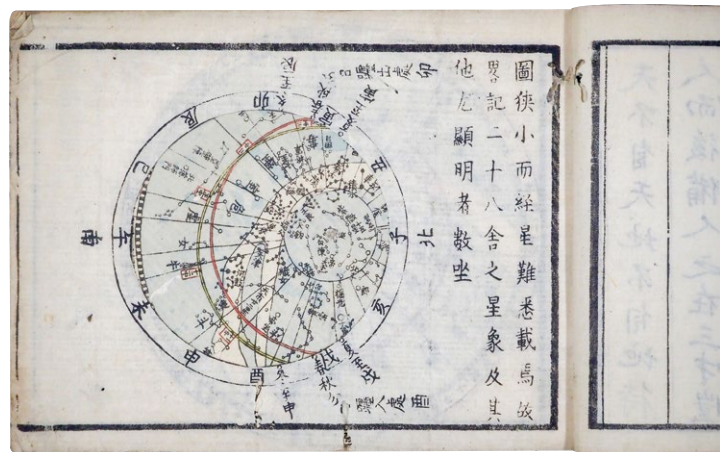
夏の星空を西洋星座と中国星座で結ぶ。はくちょう座のデネブ付近は「天津」、こと座のベガ付近は「織女」に対応する（筆者撮影・星座構成線加筆）

ことに気づき、星座探しの楽しみがひとつ増えた。星空の文化はとても奥深い。



入江脩敬『天経或問註解（てんけいゐくもんちゅうかい）』（1750年）中の星図より、現在のくじら座付近。「天潢」、「天倉」が見える。傍の「天依」は渋川春海が作った星座（個人蔵）

その周囲に皇族、官僚、役所、市場といった星座が配置された。星座の数の多さを反映し、空にはあらゆるものがある。例えば、天帝の宮城（紫微垣）には寝室や厨房から貴人の牢屋までの市場の領域（天市垣）には肉屋や布屋などの店が並ぶ。その他にも、トイレの星座は「厠」と「天瀕」（豚便所）のふたつがあるし、製粉などに使う臼の星座は、普通の「臼」と、壊れた臼「敗臼」がある。まるで天上のタウンマップだが、古代中国の社会構造を天に反映している性格上、唐代の文人司馬貞が述べるように「星座に尊卑あり。人の官曹列位のごとし」という認識であった。



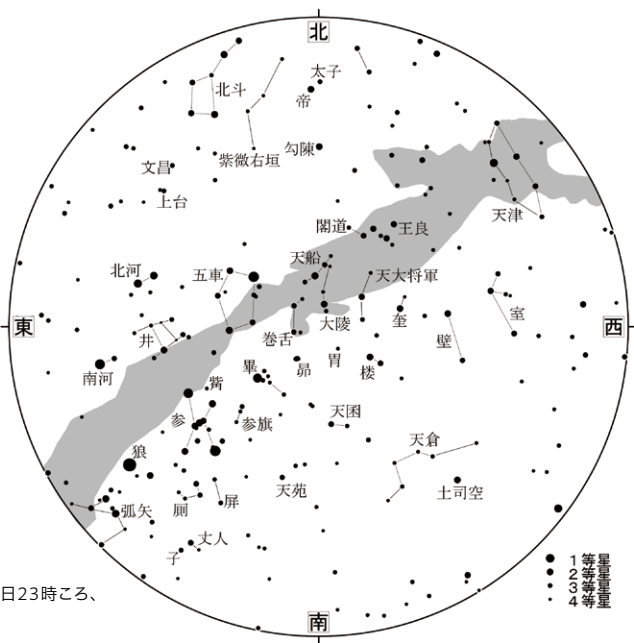
長久保赤水『天象管闢抄（てんしょうくはんきしょう）』（1774年）中の星図。星座早見盤のように星図を回転させて使い、くりぬいた窓のページで星図を覆うと、特定の時間や方角に見える星空をあらわすことができる（個人蔵）

ユニークな「渋川」星座

日本でも古代から中国星座が使われ、奈良県にある七世紀末から八世紀初めごろに作られた高松塚古墳やキトラ古墳の石室に描かれたのも中国星座である。その後、星座が身近になったのは、文化が発達し情報量が増えた江戸時代のことだ。星図などさまざまな情報が流布し、研究も盛んになった。なかでもユニークなのは一七世紀末の天文学者渋川春海で、中国星座の隙間に独自の星座を作った。

の星座を作った。「民部」、「太宰府」など古代の律令制度に則った星座のほか、中国星座の「天倉」の傍に「天依」という星座を作るなど、さまざまな工夫をしている。また、一八世紀後半になりオランダから天文書の流入がはじまると、天文学者たちは、西洋星座を形作る星々が中国星座のどの星に対応するかの研究もおこなった。しかし明治に入ると全面的に西洋星座が使われるようになり、中国星座は忘れられた存在となった。

最近、夜空の下で古い星図を頼りに中国星座をつないでみたら、案外見つけやすい



中国星座で見た星空。11月15日23時ころ、12月15日21時ころの空

星を読み、

星に祈る

小川 絵美子

東京外国語大学ジュニア・フェロー

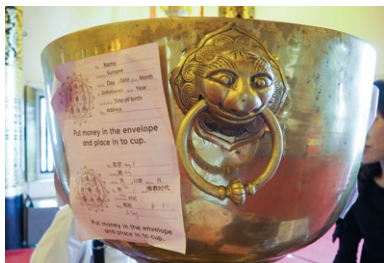
天空の寺院

タイ北部チェンマイ市街から約一五キロメートル西にそびえる標高一〇八〇メートルのステープ山、その山頂にある寺院がワット・プラタート・ドイ・ステープだ。山頂のテラスから市内を一望できることから「天空の寺院」ともよばれ、夜間も参拝者が絶

えない。特に多くの人があるから夜空を見あげるのは、六月の満月の夜。この釈迦の誕生・成道・入滅、三つの出来事を記念する仏誕節（ヴィサカブーチャ）の日、人びとは日没後に参道を上り、夜明け前に本堂での法要に参加する。夜間の参拝は、暑さを避けられるだけでなく、神秘的な力と特別感も味わえる。寺院の名前にもある「プラタート」とは仏塔のこと。山頂の仏塔は、仏教的宇宙観における須弥山（スメール山）、すなわち宇宙の中心軸を象徴している。満月をおおぎ見ながらの登山と、黄金の仏塔を巡る祈りは、天と仏に近づくという思想とも重なる。仏教では生命は輪廻転生を繰り返すとされ、星々もその宇宙秩序の一部である。



ワット・プラタート・ドイ・ステープからの展望（上）と寺院の仏塔（下）（タイ チェンマイ、2018年）



チェンマイ市内の寺院ワット・プラシン境内にある奉納壺（上）。お布施を入れる封筒（下）には自身の占星術に基づいた情報を書き込むようになっている（タイ チェンマイ、2018年）



夜明けの出漁風景(インドネシア 中スラウェシ州 パンガイ諸島、2025年)

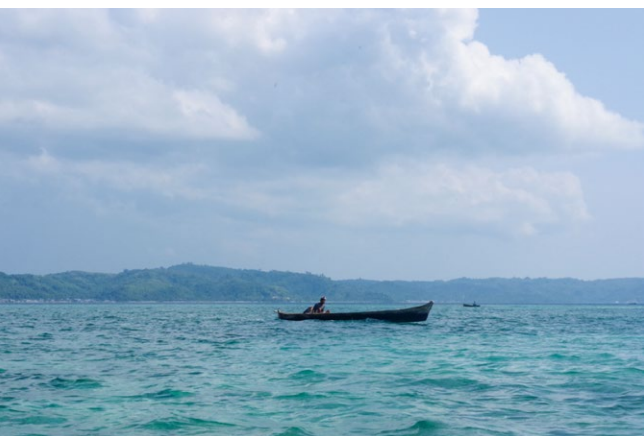
星空の下の「漂海民」

広大な海を、知識と経験を頼りに移動する人びとがいる。

オセアニアのように島嶼間が離れた海域においては、星が方角を知るための重要な手がかりになる。星は、海を移動する人びとを導く道標として、また季節や時刻の目安としても親しまれてきた。

わたしが調査をおこなっているインドネシア東部の島々には、サマ人あるいはバジヨ、バジャウとよばれる人びとがいる。彼らはかつて船上を住まいとして、移動しながら漁をおこなう生活をおくっていた「漂海民」である。

スラウェシ系サマ語では夜空に見える星を「ママウ」とよぶ。ママウは帆船で遠方まで出漁していた者にとっては今も遠い島へ向かったときの記憶と結び付けられている。地元の漁師たちに星の名前を尋ねると次々



深夜から朝方にかけての手釣り漁が多いが、昼間帯の漁もある(インドネシア 中スラウェシ州 パンガイ諸島、2023年)

自分だけの星座を描く

サマの人びとが定住化した現在では、国境を越えた移動や出漁の頻度は減り、一回あたりの漁の期間は日帰りが長くても数日程度になった。今では星を頼りに遠方へ向かうということもなくなった。日々の漁において求められるのはむしろ、島や岩の位置、複雑な潮風、波のうねり、海底の地形など

なかのまきび
中野真備 甲南女子大学 講師

ママウの記憶、海の技法

仏教寺院と占星術

星空とタイの人びととのつながりはそれだけではない。多くのタイ仏教寺院では、七尊から九尊の姿勢の異なる小仏像が並び、それぞれの曜日と、それに対応する惑星を象徴している。人びとは自らの誕生曜日の仏像を守護仏として拝礼し、星の力に祈りを託す。タイでは曜日ごとに吉色も定めら

れており、誕生曜日は性格や適性を示す要素として生活のなかに根づいている。

こうした占星術的な実践は、モンクット王(在位一八五一―一六八八)によって制度的に整えられたとされる。天文学を独学で研究し、晩年は日蝕の観測にも成功した王は、近代科学に強い関心をもちながらも、西洋の知識を無批判に導入したのではなかった。タイの伝統的な宇宙観や信仰の継承も重視

た。そうしたなかでタイは、仏教と占星術、伝統と合理性を対立させることなく共存させるという、独自の道を選んだといえる。

遠く空に輝く星々。占星術を通じて人びとはその星とつながり、人生の節目に手がかりを探す。科学か迷信かを問う前に、宇宙に耳を澄ます感性こそが、この文化の核心にあるのかもしれない。

タイ占星術における誕生曜日の惑星と吉色と守護仏

タイ占星術では、1日の始まりは「日の出」からとされており、曜日も日の出を境に切り替わる。水曜日が昼と夜で分けられるほかに、さらにもう一尊加えられ九曜になぞらえる場合もある。その場合の九尊目は、産まれた曜日がわからない人や全体の運勢を祈る人のための仏だともいわれる。



● 日曜日
太陽 赤色
菩提樹を見つめる立像



● 月曜日
月 黄色
飢餓や日照りを制止する立像



● 火曜日
火星 桃色
涅槃の境地に入った臥像



● 水曜日
日の出～日没
水星 緑色
お布施の鉢を抱える立像



● 水曜日(夜)
日没～日の出
水星 黒
象と猿から献上物を受ける座像



● 木曜日
木星 橙色
瞑想する座像



● 金曜日
金星 水色
仏法について瞑想する立像



● 土曜日
土星 紫色
蛇神ナーガに守られて瞑想する座像



○ 毎日
特定の惑星や吉色はなし
魔王マーラに勝利した座像

し、外来の知と伝統との調和を目指したのだ。天文学の研究においても、僧院時代に学んだ占星術を参照し、暦法や儀礼、実用的な判断と結び付ける姿勢であった。

当時の西洋では、すでに天文学と占星術の分離が進み、後者は非科学的とみなされていた。さらに東南アジアの多くの地域では、宗教を純化する名目のもと、星を読む行為を周縁化する傾向も見られ

仏像の写真はタイ チェンマイの最古の寺院ワット・チェンマンにて2025年に筆者撮影

を読む技術である。GPSや魚群探知機はもちろん、コンパスや地図さえも持っていない漁師たちは、自然環境のさまざまな要素から情報を読みとり、海を移動する術を培ってきた。星だけを見ている漁場に到達することはできない。しかし、「星も必要なのだ」と漁師はいう。

バンガイ諸島に、こんな逸話がある。「ある男が東のタリアブ島に行こうと夜に出発した。ところが気づいたらいつの間にか村に帰ってきてしまっていた――」。



定住化したサマの海上集落
(インドネシア 中スラウェシ州 バンガイ諸島、2022年)

これは、星を頼りにしようとしなかったからだ、という教訓めいた笑い話として語られている。タリアブ島までは約一五〇キロメートル、そのあいだの海にはいくつもの島々がある。島や岩は風の流れを生み、風は波を生む。ここでは風も波も安定していない。だが、星は周期的に運行することを彼らはよく知っている。不安定な環境のなかで、変わらぬ輝きを放つ星は他の自然物にはない安心感があるようだ。

今も漁師たちはそれぞれが任意の四つの星を結んで「ママウ・ラーヤ（風の星）」と名づけ、各々の道標として認識している。風波にもまれようとも、彼らは自分の進むべき道を星空で、しかと捉えているのだ。



大小の島々や岩からなる多島海は、複雑な海流を生み出す
(インドネシア 中スラウェシ州 バンガイ諸島、2017年)

美しい 星空の活かし方

卯田 卓矢

名桜大学 上級准教授

ダークスカイプレイス

星空観望は、観光資源になる。光害の影響によつて夜空が明るく、多くの人にとつて満天の星空を眺めるなんて非日常の体験だからである。

現在、日本でも都市の巨大な光源から離れた地方や離島などでは星空を活用した観光振興が進められている。それらの地域で最近注目されているのが、「ダークスカイ



星のデザインに変更された郵便ポスト
(沖縄県 国頭村、2025年)

プレイス・プログラム（星空保護区認定制度）である。これはアメリカに本部を置くダークスカイ・インターナショナルが、光害のない暗く美しい夜空の保護・保存とその取り組みを称えることを目的に二〇〇一年から始めた国際的な認定制度で、世界二二四カ所（二〇二五年四月時点、国内では沖縄県石垣市竹富町の一部、東京都神津島、岡山県井原市美星町、直近では福井県大野市南六呂師が認定を受けた）。

八二もの星座が見られる村

星空保護区として認定されるためには、多くの厳しい基準をクリアする必要がある。屋外照明の光が上空へ漏れないよう下向きにし、必要な場所だけを最小限の明るさで照らすという屋外照明基準の遵守や、光害に関する教育・啓発活動の実施なども求められる。星空による観光振興を進める地域の多くは、星空保護区の認定を目指しこれらの厳しい基準に沿った取り組みをおこなっている。

例えば、全天八八の星座のうち八二（本土は七〇ほどしか見えない）を観望できる沖縄本島北端の国頭村は、星空ガイドの養成やパンフレットの刊行などとともに、観望

拠点四カ所にある三〇〇の屋外照明を基準に合うように改修した。また、村はこの改修にあたってダークスカイ・インターナショナルのガイドラインに準拠した「国頭村屋外照明管理規則」を制定した。

光と地域経済

星空保護区の認定を目指す動きには、星空の美しさが国際的なお墨付きを得ることで、その地域を訪れる価値を高めた自治体側の思惑が深く関係していると考えられる。一方、住民のなかには日常的に輝いている星空が観光資源になることを想像しにくい人、また照明の改修を防犯上よく思っていない人もいる。認定を目指すことは、そうした住民に星空保護への意欲や自覚を促すきっかけにもなる点で重要といえよう。

星空が観光資源になれば、空が輝きを見



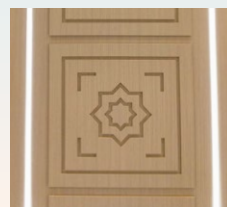
右の「国頭村で星空TRIP」は国頭村商工観光課により発行された
(沖縄県 国頭村、2025年)



沖縄本島最北端の辺戸岬。夜になると無数の星を観望できる
(沖縄県 国頭村、2025年)



左上の八芒星がイシュタルの星
(フランス、ルーブル美術館蔵)
出典:Wikimedia Commons



モスクの柱に施された八芒星の形の
タイル装飾(イラン
ヤズド、2018年、
黒田賢治撮影)



はちぼうせい

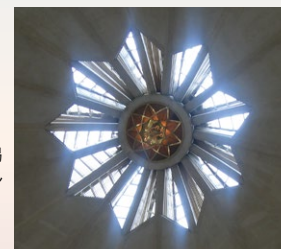
八芒星は描き方で2種類ある。

四芒星をふたつ重ねた八芒星は、例えばメソポ
タミアの女神イシュタルの星をあらわす。

正方形をあわせた八芒星は、イスラーム圏では
「ルブ・エル・ヒズブ」というシンボルである。

八芒星

九芒星



インドにある蓮の寺院の頂上に掲
げられた、バハーイー教のシンボル
(ニューデリー、2007年)
出典:Wikimedia Commons/
CC BY-SA 3.0/ ©Vinayaraj

19世紀にイランで創始されたバハーイー教のシンボルは九芒
星だが、完全性をあらわす数の「9」に由来するなど、星をあ
らわすわけではない。蓮の寺院は九角形をもとに作られている。

丸・円



ノラ・ナバルジャリ・ネルソン作《天の川のドリーミング》
星の夜空を舞台にした七人姉妹(プレアデス星団)と、姉妹を追う男
(オリオン座)の物語が描かれている(H0180886、オーストラリア)

肉眼で見えるように、^{まる}円く描かれる星は多い。

七芒星



セレマの女神ババロン(イギリス グラストンベリー、2025年、
Annabelle Markwick-Staff 撮影、William Blake原画)

さまざまな宗教伝統で「7」を示す。例えば、クロウリーが提
唱した哲学体系セレマに登場する女神ババロンの象徴。

空の星はどんな形？ あの星形は空の星？

星をあらわす形はさまざま。宗教や呪術 における星のシンボルをあつめてみました。
あなたの星はどのように見えますか？ 形は何をあらわしているのでしょうか？

四芒星



イギリス製のクリスマスカード。空には四芒
星が散りばめられているが、キリストの上
には八芒星が輝く(個人蔵)

キリストの誕生時、東方の三博士を導いた星として描かれた
り、クリスマスツリーに飾られたりする。

六芒星



宿泊施設(イスラエル ハイファ、2017年、
河西瑛里子撮影)



かつてユダヤ教の礼拝所シナゴークとし
て使用されていた建物のフェンス(ポーラ
ンド クラクフ、2025年、河西瑛里子撮影)



クロウリーの星。クロウリーに
よるトートタロットの「おまけ」
の1枚(個人蔵)



ツキをよぶボン教の依り代(H0269462、ネパール)

正三角形を重ねたユダヤ教のダビデの「星」は有
名だが、じつは星ではなく盾。その他、例えばポ
ン教の儀式で使われる依り代にもこの形のものが。
一筆で描けるものは、20世紀前半のイギリス出
身の魔術師アレクスター・クロウリーによる「ク
ロウリーの星」ともよばれる。

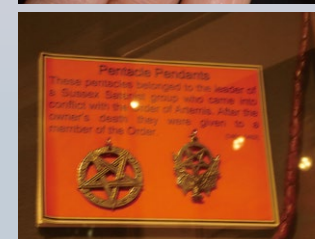
五芒星

星といえば!の形。日本の陰陽道では木火土金水とい
う五元素の関係性をあらわし、魔除けの呪符としても
使われた。

1950年代にイギリスで始まり、アメリカに広がった魔
女術のひとつ、ウィッカのシンボルでもある。逆に
すればサタニズム(悪魔崇拝)のシンボル。



上: 晴明神社の晴明井(京都市、2012年)



左上: 魔女のシンボル
(イギリス ロンドン、2017年)
左下: サタニズムのシンボル
(イギリス ボスカースー、2017年)
写真は河西瑛里子撮影

■本の紹介

中生勝美、飯田卓 編

『ファシズム期の人類学

——インテリジェンス、プロパガンダ、エージェント』

風響社 3,300円(税込)

科学の発展の道筋は、社会状況を反映してさまざまなかたちをとります。本書は、ファシズム期に各国が展開した科学政策に関連して、民族学(人類学、民俗学)分野でどのような変化が生じたかを広く深く論じたものです。



西真如、有井晴香、森明子 編

『心配と係り合いの人類学

——この世界を縫い直すためのケアの理論と実践』

ナカニシヤ出版 4,840円(税込)

この世界を「縫い直す」ための想像力を、私たちはどうすれば持てるでしょうか。本書は、ケアすることの価値と条件についての理論的探究と、この世界を「縫い直す」実践についてのエスノグラフィを収めたものです。



樫永真佐夫 監修／ミンパクチャン 著

『変わり者たちの秘密基地 国立民族学博物館』

CEメディアハウス 2,200円(税込)

「収蔵点数34万超! 展示場全長5キロ」の国立民族学博物館はどのような博物館であり、研究所であるのか。館員へのインタビューに基づき、一般読者に向けてわかりやすく示したノンフィクション。



みんなくゼミナール

第562回

11月15日(土)13時30分～15時(開場13時)

浮かぶ、走る、閉じこめる ——乗りものとしての舟、船舶

講師 飯田卓(本館 教授)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)
参加無料、申込不要(定員400名)

舟のはたらきは、器(うつわ)に似ています。舟とは、人が乗れるほど大きな器です。しかし舟には、その他の工夫もほどこされています。写真を見ながら、舟とはなにかを考えてみましょう。

第563回

12月20日(土)13時30分～15時(開場13時)

砂澤ビッキの思想

講師 マーク・ウィンチェスター(本館 助教)

会場 ①本館2階第5セミナー室ほか
※メイン会場が満席の場合は中継会場をご案内します。
②オンライン(ライブ配信)

参加無料

①会場参加は申込不要(定員200名)
②オンラインは事前申込制(定員なし)

彫刻家・砂澤ビッキ。彼が民族と芸術をめぐる「意識しないところに出るもの」と語った真意を、創作と政治の転換点から探ります。



砂澤ビッキ《四つの風》1986年
(札幌芸術の森美術館蔵、2024年撮影)

みんなくウィークエンド・サロン

※定員なし(ご自由に参加いただけます)
※申込不要、要展示観覧券(一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1200円)
※イベント参加費は不要

11月23日(日・祝)14時30分～15時15分

宝物の貝と石を探して ——オセアニアの海上交易と航海カヌー

話者 門馬一平(本館 特任助教)
会場 本館展示場(ナビひろば)
珊瑚礁に囲まれた南洋の小さな島々。貝や石の宝物を求めてカヌーで航海する人びとが住んでいます。隔絶された環境で、島と島は、人と人は、どのように繋がっているのでしょうか。テレビディレクターから転身した人類学者が写真・映像・実物を交えてお話しします。

友の会

講演会・セミナーへのお申し込みは友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団)

電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く)

E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

FAX 06-6878-3716

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会講演会

参加形式:会場もしくはオンライン配信

友の会会員:無料

一般(会場参加のみ):500円

※事前申込制、先着順

※会員は会場参加の場合、事前申込不要

第566回 11月1日(土)13時30分～15時

ジェンダーから考える イタリアの地域社会

講師 宇田川妙子(本館 名誉教授)

会場 本館2階第5セミナー室(定員70名)

第567回 12月6日(土)13時30分～15時

2034年に向けて

——アイヌ民族総合調査の研究

講師 伊藤敦規(本館 准教授)

会場 本館2階第5セミナー室(定員70名)
2034年まで残り8年。みんなくが存在理由にも関わる学問的多重周年記念年を見据えて、私たちは今から着実に準備を進めていくべきでしょう。私の専門は博物館を舞台としたアメリカ先住民との協働研究でしたが、本格的に学究研究を始めました。新たな研究テーマは「アイヌ民族総合調査の研究」です。開始3年で明確になってきた全体像と課題を2034年という意味と絡めながら紹介します。

東京講演会

友の会会員:無料、一般:500円

※事前申込制、先着順

※オンライン配信はありません。

第141回 11月2日(日)13時30分～15時

「原住民藝術家」として 語る／語らない人びと

講師 田本はる菜(成城大学 専任講師)
会場 モンベル御徒町店4階サロン
(定員50名)

協賛 株式会社モンベル

「原住民藝術(家)」というフレームは、作品を理解する拠り所になる一方で、ときには足かせになることもあります。「私をただ『藝術家』と呼んでほしい、『原住民』という3文字を被せないでほしい」という、拉黒子・達立夫(ラヘズ・タリフ、台湾原住民のアーティスト)の言葉を手がかりに、台湾原住民の工芸・藝術にいかに接近できるのかを探ります。

特別展

舟と人類

アジア・オセアニアの海の暮らし

会期 12月9日(火)まで

会場 特別展示館

展示の目玉であるクラカヌー

講師 小野林太郎(本館 教授)

後藤明(喜界島サンゴ礁科学研究所 学術顧問)

定員 各回20名

※事前申込制、イベント参加費は不要

申込期間 11月8、9日

会期 12月6、7日

会場 11月5日(水)まで

12月3日(水)まで

ワークショップ

縄文さんと石斧で丸木舟をつくらう

コース① 2時間のコースです。小型丸木舟の製作を体験します。

日時 11月15日(土)、11月16日(日)、11月22日(土)、11月23日(日)祝

各日2部入替制 ①10時30分、12時30分 ②14時、16時

コース② 2日間のコースです。

1日目(土)は石斧づくり体験、2日目(日)は製作した石斧を用いて縄(かいつくり)をおこないます。

日時 11月29日(土)10時30分、16時、11月30日(日)10時30分、15時

コース①、コース②共通

会場 特別展示館地下休憩所

講師 雨宮国広(縄文大王)

馬淵香(アシスタント)

定員 各回15名

※事前申込制、イベント参加費は不要

申込期間 11月15、16日

会期 11月22、23日

会場 11月19日(水)まで

11月29、30日

11月25日(火)まで

みんなく映画会

「チェチェメニ号の冒険」

日時 11月29日(土)13時30分、16時

15分(開場12時30分)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)

定員 350名

参加費 要展示観覧券(一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1200円)

※イベント参加費は不要

解説 門田修(映像作家)、林和代(サタウル島航海体験者)、拓海広志(海洋ライター)&シンガーソングライター)

司会 小野林太郎(本館 教授)

※事前申込制(本人を含む2名まで、先着順)

※事前申込の方へ、当日12時30分から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場していただきます。

※受付期間中に定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。

申込期間 11月26日(水)まで

※友の会先行受付は終了しました。

企画展

フォルモサアート

台湾の原住民藝術の現在

会期 12月16日(火)まで

会場 本館企画展示場

総勢12名の台湾原住民のアーティストによる現代アート

ミンパクオッタカムイノミ

(みんなくでのカムイノミ)

当館が所蔵するアイヌの標本資料への安全な保管と後世への確実な伝承のために、北海道アイヌ協会の協力を受けて、折りの儀礼(カムイノミ)とアイヌ古式舞踊の演舞をおこないます。

日時 12月4日(木)

10時30分、11時50分

会場 本館玄関前広場(雨天時は演舞のみ本館1階エントランスホール)

※一般公開(参加無料)、事前申込不要

みんなくミュージアムパートナーズ

(MMP)のワークショップ

点字体験ワークショップ

日時 11月8日(土)、12月13日(土)

遺贈寄付のお知らせ

みんなくではREADYFOR(レディフォー)株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

レディフォー 遺贈寄付サポート窓口

【電話番号】0120-9481313

【平日10時～17時(年末年始除く)】

【オンライン】

二次元コード(QR)からご連絡ください。

【QRコード】

【電話番号】0120-9481313

【平日10時～17時(年末年始除く)】

【オンライン】

二次元コード(QR)からご連絡ください。

【QRコード】

日本・ウズベキスタン共同調査報告書

シルクロードの至宝

日本初公開!

クラウドファンディング挑戦中

9月16日(金)～11月17日(土) 400万円

クラウドファンディング挑戦中

クラウドファンディングに挑戦しています。おかげさまで当初のゴールを達成しました。このたび、終了までネクストゴールとして800万円を設定し、引き続きのご支援をお願いします。

募集期間 11月17日(月)23時まで

※詳細は二次元コード(QR)からご確認ください。

【QRコード】

みんなく 回覧板

イベントの詳細・予約はこちら

みんなくホームページ

催し物のご案内

https://www.minpaku.ac.jp/event/



各イベントについて、詳しくはホームページをご覧ください。

床屋と看板

標本番号 | H0231458(床屋)、H0231459(看板)

地域 | コートジボワール

展示場 | アフリカ

寄贈 | 高橋雅子氏



アフリカで資料収集中の高橋さん
(コートジボワール アビジャン、
2002年、高橋雅子氏提供)

★ 推しコレポイント ★

店名が店主の名前なのに、なぜか看板の顔がトゥパック
(らしき人物)。裏側は、なんと民族活動家のマーカス・
ガーベイ風！



アフリカなのにアメリカ？

しまむら いっぺい
島村 一平 民博 教授

アビジャンのトゥパック

みんなくのあの床屋は、やばい！ 音楽評論家の丸屋九兵衛さんと盛りあがった。アフリカ展示コーナーにある、コートジボワールの床屋のことである。吹けば飛ぶような板製の掘っ立て小屋。壁には、アメリカのラッパーや黒人俳優たちの切り抜きがところ狭しと貼られている。店名は「レオ・コワフェール・ウエストサイド」。立て看板には、星条旗をバックにアメリカのラッパー、トゥパックらしき人物。「ウエストサイド」とは、トゥパックらが活躍していたアメリカ西海岸を指す。いわゆる「ウエッサイ」である。アフリカなのに、アメリカなのが面白い。

ちなみに床屋の向かいに展示されているガーナのヘアスタイル見本もシュールだ。トーキョー・ヘアカットにカリフォルニア・ヘアカット。アフリカのストリート文化がいかにかグローバル化しているかを示す展示物だ。

謎は、それだけではない。これらの展示品の寄贈者名がすべて「高橋雅子」となっているのではないかな。高橋さん、誰！

高橋雅子さんを見つける

さっそく寄贈者を探し、お話をうかがった。現在、高橋さんは仙台で「ホスピタル・アーティスト」として活動されている。むかし、ある博物館でキュレーターをしていたとき、アフリカのストリートアートをテーマにした

展示を思いついた。そこで現地に渡航、私財で「かわいいモノ」を買い集めた。2002年夏のことである。

なかでもアビジャンの骨董品市場のそばに建っていた床屋に魅せられた。「店ごと全部、売ってください！」。店主のレオさんは「バカじゃないの」と一蹴。だが高橋さんが本気だとわかると、「この店はじつはいい木材を使っているんだ」と態度が一変、値上げ交渉が始まった。話がまとまり、その場で梱包し港まで運んだ。傑作だったのは、高橋さんたちが床屋を運んだ翌日には、別の掘っ立て小屋が建っていたこと。そして帰国直後に内戦が勃発。

高橋さんの努力が実り、日本各地でアフリカのストリートアート展が開催された。そして最後はみんなくに。「この床屋を使って渋谷でカフェでもしようと思ったけど、保管する倉庫代が高くて心が折れたの」。みんなくに寄贈を決意した。モノに歴史あり、である。



床屋が実際に使われていたとき
(コートジボワール アビジャン、2002年、高橋雅子氏撮影)

MAX な古代メキシコ巨大石像

ハラパ人類学博物館 (メキシコ ベラクルス州 ハラパ市)

いちかわ あきら
市川 彰 民博 准教授



上:オルメカの巨石人頭像とわたし
下:ミシュテキージャ文化の「笑う人」の土偶

メキシコの博物館といえば、首都メキシコシティにあるメキシコ国立人類学博物館が有名だ。でも、ここで紹介したいのは、わたしが勝手に「メキシコの博物館の裏番長」と位置付けているハラパ人類学博物館である。スペイン語では、Museo de Antropología de Xalapa。略してMAX。

MAXは、首都から東にバスで揺られること約五時間、ベラクルス州ハラパ市にある。首都からふらり行ける近さではないからか日本ではあまり知られていないが、市内の街並みも雰囲気がよく、おススメの博物館だ。

この博物館の魅力は、何といっても巨石文化で知られるオルメカ文化の石彫群の展示だ。オルメカ文化とは、古代メキシコの諸文化の母体になったともいわれていて、紀元前一四〇〇〜四〇〇年ころにかけてメキシコ湾岸南部で栄えた。重さ数十トンを超える巨石人頭像や玉座は圧倒的で、人間や動物を表象した石彫も魅力的だ。ベビーフェイスとよばれるどこか憎めな

い顔つきの土偶や輝くヒスイ製品などからは当時の人びとの造形美をうかがい知ることができる。じつは、二〇一〇〜二〇一一年に日本で開催された「古代メキシコ・オルメカ文明展——マヤへの道——」にも、MAXからの名品がたくさん来ていた。

MAXの展示のす

ごさは、オルメカ文化だけではない。「笑う人」の土偶で有名なミシュテキージャ文化、壁龕のピラミッドで有名な世界遺産エル・タヒン遺跡出土の遺物、古代メキシコの重要な儀礼であった球技と関連する三種の神器ユーゴ・アチャ・パルマ、メキシコ湾岸北部に栄え戦士の石彫で有名なワステカ文化など、ほかの博物館にはないメキシコ湾岸に花開いた独特の世界を見ることが出来る。

メキシコ盆地には世界遺産テオティワカン、ユカタン半島には世界遺産チチェン・イツァもある。だから、首都から五時間もかけてハラパまで行つてられない、という方もいるだろう。でも大丈夫! 「おうちでMAX」という手がある。ヴァーチャルミュージアムも充実しているので、いつでもふらり訪れられて、しかも楽しさMAX!



エル・タヒン遺跡の壁龕のピラミッド
(写真はすべてメキシコ ベラクルス州、2011年)

「霧の街」への道と旧日本軍

くぼただゆき
久保忠行

立教大学教授

タイ北部の西端に位置し、ミャンマー（ビルマ）と国境を接するメーホンソン県は、山に囲まれた盆地で「霧の街」ともよばれている。わたしはここで「首長族」として有名なカヤン民族の観光や、隣国ミャンマーからの難民について調査してきた。

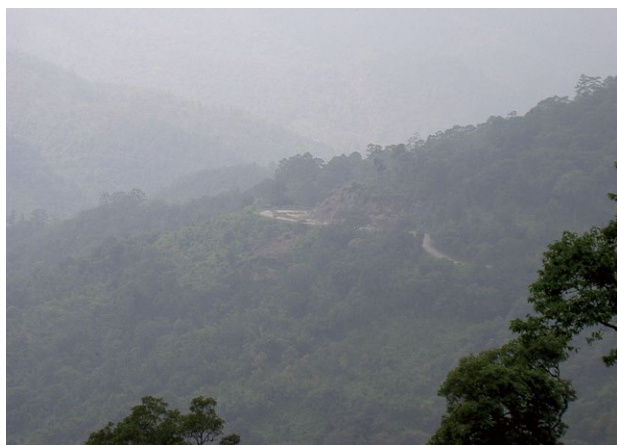
メーホンソンへは、タイの第二の都市チェンマイからの陸路では、一八六四ものカーブが続く山道を通ることになる。「一八六四」という数字は、土産物のTシャツにも印字されるなど観光資源にもなっている。この道は、観光客にとっては次の目的地へ向かう一本道にすぎない。しかし、点在する村の住民にとっては、日々の暮らしに欠



旧日本軍が用いていた車両
(タイ メーホンソン、2007年)

かせない生活道路だ。一見、道路脇に乗り捨てられたように見える一二五ccのバイクも、実はこのあたりの住民のものだ。山中には、時折、山を切りひらいた焼畑の耕作地が見られる。

じつはこの道路を建設したのは、旧日本軍である。同県は第二次世界大戦中、ビルマ戦線に向けた重要拠点で、同県クンユアム郡ではインパール作戦で敗退した兵士を地元住民が迎え入れた。そのため当地には旧日本軍の銃や衣服、生活用品などの遺物が多く残されていた。これらを収集したのが、警察署長だったチューチャイ・チョムタワット氏である。氏は一九九六年、私財を投じてクンユアム第二次世界大戦・日本戦争博物館を開館した。現在は整備



つづら折りにひらかれた山中の道路
(タイ チェンマイ・メーホンソン間、2004年)

されタイ日友好記念館として公開されている。氏が残した記録冊子『第二次世界大戦でのクンユアムの人々の日本の兵隊さんの思い出』は武田浩一氏と武田ソムヌック氏によって邦訳され、電子書籍でも読める。南部メーサリアン郡にはミャンマー難民キャンプがあるが、ここで最後まで日本兵であることを明かさずに亡くなった未帰還兵もいたという。このキャンプでは、現在もミャンマー内戦にともなう難民が暮らしている。メーホンソンは、過去と現在の戦争が交差する土地なのである。

だって
調査だもの

つながりを呼び寄せる「記録」

たかしな まき
高小 真紀
民博 助教



比嘉康雄のアトリエ

アーカイブズを専門とするわたしの調査対象は、人びとの営みの痕跡である「記録」である。くらしや文化、歴史が刻まれた写真、日記、手紙、書類など、個人や団体が遺し



比嘉康雄アトリエでの調査風景。比嘉康雄アーカイブズ調査チームとして、県内外から人が集まる（日本 沖縄市、2023年、工藤航平氏撮影）

たアーカイブズ。それらが保管されている空間を訪ね、向き合うことが、わたしにとってのフィールドワークである。調査の舞台は北海道から沖縄まで、全国各地の個人宅や施設など多岐にわたる。調査のきっかけは、いつも人と人との偶然のつながりから生まれてきた。

現在、特に足繁く通っている、沖縄市にある写真家比嘉康雄（一九三八～二〇〇〇年）のアトリエの調査もまた例外ではない。そこには、彼が記録した沖縄の祭祀を中心とする写真や取材ノートなどが保管されている。「比嘉氏の作品を撮影された地域に還したい」と

いう沖縄の写真家たちの思いが、研究者仲間を介してわたしをこの場所へと導いてくれた。

韓国で三〇年ぶりの「再会」

この調査を進めるなかで、新たな縁も生まれ、二〇二五年一月、わたしは韓国・済州島を訪れることになった。第四回済州ビエンナーレにおいて、比嘉康雄と韓国の写真家キム・スナム（一九四九～二〇〇六年）による合同展示が開催されていたからである。二人は一九八五年に沖縄で出会い、一九九四年には済州島でキム氏の案内のもと取材をともにした。今回の展示は、約三〇年ぶりの二人の「再会」でもあった。じつはこの展示のそもその発端は、わたしたちのアーカイブズ調査



1994年3月、済州島での比嘉康雄（右）とキム・スナム（左）（比嘉康雄アトリエ提供）

にあった。しかも、偶然の連鎖があった。そのことについて語ろう。

二〇二三年春、『琉球新報』に掲載された比嘉康雄の一九九四年の済州島訪問の記事を目にし、彼の代表作『神々の古層』（ニライ社）全一二



現地の民俗学者の案内で、「ヨンドンク」が開催された場所を訪ね、比嘉康雄が撮影した写真と現在の場所を比較しているところ（韓国 済州島、2025年）

巻が、キム氏の助言を受けて完成されたものであることを知った。キム氏について調べるうちに、韓国のクツとよばれる祭祀を記録した彼のアーカイブズが韓国の国立民俗博物館に寄贈され、同館で収蔵・公開されていることを知り、強い関心を抱いた。



比嘉康雄が1994年3月に済州島を訪問したときの取材ノート、地図など。地図には取材したヨンドンクに関する情報が記されている（比嘉康雄アトリエ提供）



済州ビエンナーレでの比嘉康雄とキム・スナムの写真展会場。比嘉康雄の代表的著作『神々の古層』も展示された（韓国 済州島、2025年）

である。そして、この研究会に同行した沖縄の写真家の「比嘉康雄の写真展を、韓国で開催したい」という一言が、さらに事態を動かすきっかけとなった。彼の友人であり、韓国・沖縄・アメリカとともに文化芸術活動を展開してきた韓国の写真家の尽力によって、わずか九カ月後に写真

展が実現した。作品の選定から紹介文の執筆、沖縄から済州島への輸送まで、写真家たちの行動力によって写真展がカタチとなったのである。わたしの調査には、常に「つながり」がある。人との出会いから記録に出会い、そこからまた新たな人と

のつながりが生まれていく。アーカイブズとは、人の手によって遺され、人と人とを結ぶ記録でもある。わたしのフィールドワークは、そうした偶然でありながら、どこか必然的ともいえる出会いに導かれながら、これからも続いていくのだろう。



2つあったオーツケーキ

かわにし えり こ
河西 瑛里子 民博 助教

プラスチックの袋をひらくと、オーツ麦の香ばしい香りが広がる。

1枚をそっとつまみ出し、頬ばる。やはり香ばしい味わいにうっとりする。

わたしはこのオーツケーキが大好きだ。毎年のイングランド南西部での調査中、身体の4分の1が置き換わる勢いで食べ続けている。見かけは大きめの薄型クラッカー。ドライフルーツや生姜入りなど種類は豊富。6〜8枚も入っているのに、ランチでもおやつでも1回で食べきってしまう。禁断症状予防のため、帰国前にはスツケースの隙間をオーツケーキで埋め尽くす。かくして、日本ではいつものフィルめしから特別な日のごちそうへと昇格する。

周囲の人たちもピクニックのお供に、小腹が空いたときにと、わりと食べてはいるのだが、熱狂的に好きではなさそう。「イングランドで好きな食べ物」として、オーツケーキを挙げると、必ず「スコットランドのでしょ!」と突っ込まれる。そう、じつは「外来」食物なのだ。

でもイングランド独自の「オーツケーキ」もあると知ったのは、中部のストーク・オン・トレントを訪れたときだった。

「オーツケーキあります」。この町では、そんな看板をパブで見かけ、専門店まであった。出来立てのオーツケーキを食べられる!と、その一軒に入ってみたが……、この地域では、オーツ麦の生地に好みの具を挟んで焼いたクレープ状の軽食をオー

ツケーキとよんでいたのだった。

具にはチーズとベーコンを選んだ。オーツ麦の生地は薄く、サンドイッチより炭水化物が少ないので、ふにょとしていなくて食べやすい。生地の香ばしさと具の相性の良さが、はかったわけではなさそうなのに絶妙で、同じ日に別の店でマッシュルームと卵のオーツケーキを頼んでしまったほどだ。

初めのお店では20枚ほど重ねた生地が袋詰めして売られていた。「遠くに暮らす家族や友達への手土産に地元の人たちが買っていく。ここでしか手に入らないから、みんな懐かしがるんだよ」と店主さん。

この町には地域限定ゆえに、わたしのフィルめしになり損ねてしまった、もうひとつのオーツケーキがあった。



左: イギリス中で買える、クラッカー状のオーツケーキ(2024年)
右: ストーク・オン・トレントのオーツケーキはクレープ状だが、生地の色はより濃い。思わずもう一度、頼んでしまった2回目の店では、マッシュルームと卵をトッピング。ケチャップの他、ブラウンソースやサラダクリームという、イギリスでよく見かける調味料を、自由にかけられるようになっていた。外食としては格安の2.25ポンド(約450円)(イギリス ストーク・オン・トレント、2024年)

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6876-2151

発行人 山中由里子
編集委員 樫永真佐夫(編集長) 河西瑛里子
黒田賢治 中川理 奈良雅史 松本雄一
制作・協力 公益財団法人 千里文化財団
印刷 株式会社 研文社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係
にお願いします。

この雑誌は、環境に配慮した工場で、再生産可能な大豆油由来のインク、FSC®認証材および管理原材料から作られています。また、読みやすくするために、色づかいやレイアウトなどに配慮しています。



『月刊みんぱく』は 国立民族学博物館の広報誌です。

世界の文化とみんぱくの展示、研究者の活動について紹介しています。本誌は定期購読のほか、友の会会員の方には毎月お届けします。

『月刊みんぱく』定期購読

本誌を1年間お届けいたします。年間をとおして、いつからでも始められます。



お問い合わせ

国立民族学博物館友の会

みんぱくの活動を支援し、積極的に活用するためにつくられました。本誌送付のほかにも、各種催しなど、さまざまなサービスがあります。

定期購読、友の会については国立民族学博物館友の会(千里文化財団)までお問い合わせください。

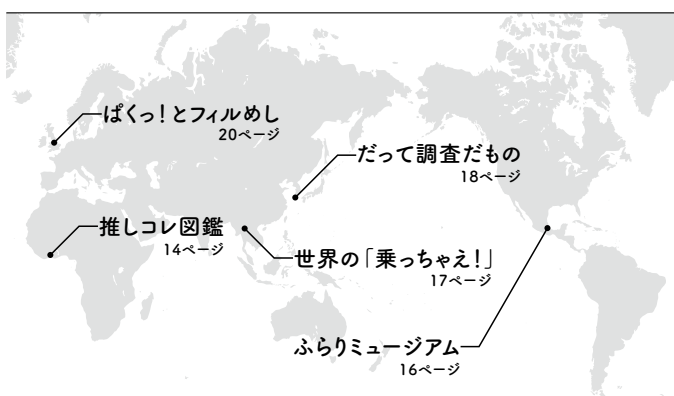
電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会

今月号の地図



編集後記

人にとって星は天空で勝手に瞬いているのではない。見あげては、意味と物語を読み取ってきた。星の物語といえわたしはギリシア神話がらみの話や牽牛・織女の哀話を思い浮かべるが、それは日本の教育環境によるもの。その知識は自分の生存とは直結していない。だが、中野真備さんのエッセイを読んで、星座が生存のために必要な人たちが同時代にも存在していたのだと今さらながら気がついた。

それにしても、惑星という名付けをしたむかしの人の天体の観察眼とことばのセンスには感嘆する。「恒の星」と「惑う星」なんて対比はなかなか思い付かない。わたしなら科学的知識にとらわれ、自光星と他光星など、遊びもセンス

もない名を付けてしまいそうだ。

話は変わって、今号の「推しコレ図鑑」

では、島村一平さんが展示資料に付随する寄贈者の物語を紹介。標本資料にはそれぞれの来歴がある。展示場で、それぞれの物語も感じていただきたい。(樫永真佐夫)



次号の予告 12月号

特集「笑ハラ」(仮)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 電話 06-6876-2151

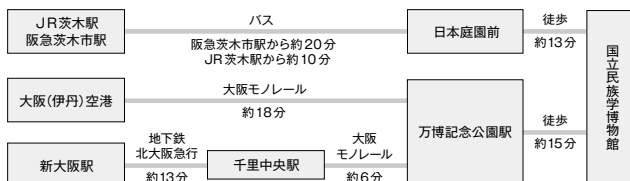
開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は直後の平日)
年末年始(12月28日~1月4日)

観覧料 一般 780円/大学生 340円/高校生以下 無料
特別展の観覧料金は、その都度、別に定めます。
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

主要ターミナルからのアクセス

本館までの交通手段は次の方法が便利です。



みんぱくホームページ

<https://www.minpaku.ac.jp/>



引き続きクラウドファンディング挑戦中

日本×ウズベキスタン共同調査隊が発掘

シルクロードの至宝 日本初公開!

支援募集期間 2025年 **11月17日(月)23時まで**

画像提供：日本・ウズベキスタン共同調査隊

ウズベキスタンの世界遺産「カフィル・カラ遺跡」より出土した考古遺物の日本初公開を目指し、クラウドファンディングに挑戦しています。おかげさまで当初のゴールを達成しました。このたび、終了までネクストゴールとして800万円を設定し、引き続きのご支援をお願いします。

ご支援・詳細は

WEB サイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/akindo-gatari>

国立民族学博物館 レディーフォー



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



READY FOR